

はまゆう

2015 Nov.
No.653

11

濱田重工グループ情報誌

特集

手間ひまが大切

品質管理に近道なし



スタート



モノづくりフェアに初出展

当社の技術開発の取り組みを紹介

10月14日(水)から16日(金)までの3日間、マリンメッセ福岡で開催された「モノづくりフェア2015」に当社が初出展しました。フェアには、モノづくりに関連した各企業のあらゆる加工技術や設計・製造支援、工具はもちろん自動車や環境・エネルギー、次世代技術まで広範囲におよぶ製品と技術が集まりました。

全体で約12,400人もの来場者があり、モノづくりコーナーとして出展した「当社のブース」にも、さまざまな業界の方から訪問いただきました。フェアに出展した製品・技術と担当者からのPRをご紹介します。



自動車用外装部品のミニチュアモデル
曲面形状の再現に力を入れました。
CFRPは自動車業界での需要が予想されています。



スマートフォンケース
硬くて丈夫な素材なので、
携帯電話を落としても安心。



扇子
骨組みの素材をCFRPで和風に仕上げました。

試作サンプルの
一例をご紹介します

熱電対付きウェハー

デバイス製造装置や液晶製

造設備で幅広く活用されている「熱電対付きウェハー」を製造・販売しています。熱電対付きウェハーとは、ウェハーの温度

管理に使われる測温センサーのことで、主に半導体プロセス装置の健全性チェックなどに使われています。

ウェハーに直径2ミリの穴を開け、素線径0.1ミリの熱電対を焼結して取り付けて、装置内ウェハーの温度を直接測定することで、迅速かつ正確な温度管理ができます。

熱電対付きウェハーの改造や修理、カスタムオーダーも短納期で承りますので、いつでもご相談ください！

シリコンウェハー
事業部
池部貴之さん▲熱電対付きウェハーを
会場に展示▲デジタルサーモメーターは熱電対の先端に番号が
付いており、その番号ごとに温度を表示しています。ジョイントコート専用
プロパンバーナーと施工治具

公共事業を中心に、水道鋼

管やガス鋼管のジョイント部分に使用する「熱収縮シート」「熱収縮チューブ」など、さまざまな防食材を販売しています。

ジョイントコートは、管と管の溶接部分に施工するもので、加熱すると収縮して硬くなり、管に密着し腐食を防ぐことができます。ジョイントコートは、一般のバーナーを使用すると溶けるため、大きな炎で適温のバーナーや管に密着させる「ローラー」を新たに独自で開発しました。

全国各地にお客さまがいます。私たちが現地で施工指導も行いますので、お気軽にお声かけください！

本社・
商事グループ長
市原勝己さん

▲熱収縮シートの施工現場

ジョイントコート
専用プロパンバーナー(右)

バーナーの火口は、空気の通り道として「穴」を多く作ること、大きくて赤い炎が確認でき、施工がしやすくなっています。

ジョイントコート
貼り付け用ローラー(左)

加熱後はローラーを用いて、管に密着できます。ローラーの回転部分はシリコンゴムで熱に強く、手入れも簡単。持ち手は縦型・横型の2種類あります。



▲収縮率やサイズの多様なチューブ・シートを取り扱い、お客さまの幅広いニーズに対応。

炭素繊維強化プラスチック
(CFRP)

炭素繊維強化プラスチック

(CFRP)の成形技術であるVaRTM(バータム)成形法の技術を研究しています。

CFRPは強化材に炭素繊維を用いたプラスチックで、鉄以上の強度と5分の1の軽さを併せ持っています。そのため、レーシングカーや航空機からゴルフのクラブシャフトなどのスポーツ用品にまで、幅広く使用されています。

開発グループでは、技術開発のほかに事業化に向けた新製品アイデアを模索しています。軽くて丈夫なCFRPでこんな物があたらうというアイデアがありましたら開発グループへ高木まで、ご連絡ください。

開発グループでは、技術開発のほかに事業化に向けた新製品アイデアを模索しています。軽くて丈夫なCFRPでこんな物があたらうというアイデアがありましたら開発グループへ高木まで、ご連絡ください。

▲バータム成形法について
パネル展示で解説本社・開発グループ
高木亮輔さん本社・開発グループ
杉谷領太さん

できあがり



▲炭素繊維でできた薄いシートを重ねて真空密閉。プラスチック樹脂を流し込み、24時間置いて固めると、CFRPが完成します。



▲専用加工装置でCFRPを加工。CFRP製の名刺を製作しました。完成品は高級感があります。